

議長（中田文夫君） 3番 三鍋芳男君。

3番（三鍋芳男君） おはようございます。任期最後の質問をさせていただきます。

私は、舟橋村の防災対策ということについて質問させていただきます。

平成13年5月以来の5年9カ月ぶりで去る2月27日、当竹内地区で民家が全焼いたしました。そのとき、消防団、近隣の市町村の皆さん、村長さんをはじめ役場の職員の皆さん、舟橋村民の皆様方には大変ご迷惑をかけ、またご協力いただきまして感謝申し上げます。特に中田団長さんをはじめ消防団員の皆様方には、夜中じゅうの警戒をし、消火を何度もしていただきまして、本当にありがとうございました。

私自身はサイレンを聞いて現場を見たころには、真っ赤な炎が立ち上っていました。水が必要だと思い、まず駅南駐車場の横にある水門を小学校の教頭先生の協力をいただいて水をせき止めました。その後、大水門まで車で走り、水を多く流すようにしようと思いつけたわけでございます。しかし、例年より京坪川の水が少なく、これは立山町鉾ノ木地区で水路の工事を行っているためであったのだろうかと思うわけでございます。また、用水にごみや草木が覆いかぶさり、思うように水が流れない状態であり、ともかく少しでも多くの水を流すように努力いたしましたが、火事現場まで水が届くのに約20分ほど時間がかかりました。火事現場での見学者からは、消火栓から十分な水が出ていないという話も聞きました。一斉に水を放水するために、上水道の圧が弱くなるのか、また部分的に水が足りなくなる状態なのかいろんな要因が考えられます。

今回の火事で全焼した本人に一番不注意があると思いますが、当時乾燥もしていたし、いろんな悪条件が重なったかと思います。

今後は、消火栓をもっと増やすとか防火用水の整備や土嚢等の準備が必要と思われる。村長の防災計画についてお聞かせください。

もう1つですが、平成14年10月5日に、天然ダムによる大土石流を想定した防火訓練が行われました。常願寺川において、今から約149年前、安政5年の大震災が発生しており、大災害においては迅速な情報伝達や応急対策とともに、村民の避難が重要になると思います。先般の提案理由の説明の中に、「安全で安心して暮らせるむらづくりに向けて」の中で、地域の安全対策の確立に向け、洪水対策のために立山町と共同で作成するハザードマップの作成委託料が19年度の予算に380万8,000円計上してあります。また、毛布、スコップ等、災害時用品を備蓄することにも村民は期待しておりますので、早急をお願いいたします。

私も、平成18年3月議会で一般質問いたしました。日ごろからの防災対策や訓練が必要だと思っております。「災害は忘れたころに起きる」と言われます。村長の考えをお聞かせください。

議長（中田文夫君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 3番三鍋議員さんのご質問にお答えいたします。

初めに、先日竹内地区内で発生いたしました火災で被災された方をはじめ、地区の皆様には衷心よりお見舞いを申し上げる次第でございます。

当日は、私はすぐ現場に駆けつけまして作業を見守りましたが、村消防団の皆さんはもとより、立山署、上市署、水橋署や各分団員の方々の機敏で統制の取れた消火作業に感心いたしました。また地区の皆さん方も懸命に消火作業に協力された結果、延焼を食い止めたのだと思っている次第であります。改めて消火作業にご協力いただきました関係各位に感謝申し上げる次第であります。

ただ残念なことは、翌日火災連絡を受け、一番先に現場到着した村消防団の皆さんからは、「ポンプ車を県道富山上市線に横づけし消火作業を開始したが、用水路に水がなかったため消火栓から放水し消火に努めた。自然水利（用水路）から放水できればもう少し早く鎮火できたのではないかと。ただ、実際に用水路に水が来たのは消火作業も終わり近くなった時期で、しかも現場で鎮火号令が出た途端に水が来なくなってしまった。翌日の残り火の始末もできなかった」という報告を受けている次第であります。

一刻を争う緊急時でありますので、連絡体制がうまくいかないことも想像されますが、やはり水の確保は、用水経路を熟知しておられる地元の方をお願いするしかございません。

先日も30メートルを超える春の嵐が吹き荒れたように、フェーン現象の発生しやすい時期となってまいりました。今回の教訓を生かそうと3月5日付で私と中田消防団長の連名で、各自治会長さん方へそれぞれの地区で万一に備えた対応策、消火栓の位置の再確認や取り扱い方の確認、冬季間の用心水の確保などについてお願いしたところでございます。早速ある地区から消火栓の取り扱い講習の希望も受けたのであります。

村といたしましても、村消防団と協力いたしまして、地区要望にお応えしていきたいと考えている次第でございます。

ご質問のありました消火栓を増やす件、あるいはまた土嚢の準備等についての当局の考えを問うということでございますけれども、何よりも私は、啓蒙啓発というのを絶え

ず行う。これは交通安全にも結びつくことでございますけれども、私は一昨年、舟橋村安全なまちづくり協議会を立ち上げさせていただきまして、それぞれの方々がそのメンバーに参画していただいているわけございまして、そういった協議会を通じまして、ご質問ありました消火栓を増やすということは、今充足率は100%になっているそうでございますけれども、しかしながら今後の検討課題といたしまして、いろんな面での計画、あるいはまたそういった備えをするということに対して十分配慮してまいりたいと、かように思っているわけでございます。

そういうことで、いつも言っているように、皆さん方と一緒に、安全・安心という言葉をいま一度改めて認識を新たにして、舟橋村のよき姿を守っていくことに努めてまいり所存でございますので、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げまして、私の答弁にかえさせていただきます。

議長（中田文夫君） 三鍋芳男君。

3番（三鍋芳男君） 答弁ありがとうございます。

1点抜けておった点がございまして。1つは、防火用水の件を質問していたのですが、それが1点抜けておりました。

それともう1つは、消火栓が、私の質問の中で水が十分に出ていなかったということに関して調べていただいたのか、どういう状況でそうなったのか。もし本当に水が足りないなら、立山町さんが水が余裕があるという話も聞いておりますので、そこへどこかへつなげる方法をとるとか、何かそういう方法で緊急の場合の対策というのはできるんじゃないかなと思うんですが、その点1つお願いします。

それと、これは竹内だけではなく、舟橋村全体でもこの水の問題というのは言えるんじゃないかなというふうに思いますので、強くそのへん考えるより即実行することが大事だというふうに思います。

それと関連いたしまして、土地改良の総会がこの前もございましたが、農地・水・環境保全で村も予算計上しておりますが、そういう中での工事の中で、用水路の整備等も関連づけてする方法がないだろうかということも含めて考えていただきたいなというふうに思います。

それからこの前、協議会するときにも話が出たんですが、今携帯やパソコン等の性能もすばらしくよくなっておりますので、緊急の場合の情報伝達を即送れる方法を考えていただきたい。そうすれば少しでも早ければ大きな被害にはならなかったのかなというふ

うに考えます。

それともう1点、立山地区での工事、私もきのう現場を見てまいりました。その用水には水が通っておりません。現場監督さんいわく、水が欲しいのなら流してあげますよというふうに言っておいでになりました。これは立山土木の発注らしいのですが、舟橋の担当職員に聞いても知らなかったというような状況でありました。そのため、連絡網というのはどのようになっているのかなというふうには感じますので、その点。

それともう1つは、今、新築の家では、火災報知機というのは当たり前になっていますが、既存の家でも将来的にはつけなければならぬというふうには、2階の上がり口とか台所とか寝室ということに決まっておりますが、その点、一般の人たちはいいんですが、ひとり暮らしの方が舟橋村にも結構おいでになると思います。そういう方というのは、村で出してあげるなり、補助をしてあげるなりという方法も考えられるんじゃないかなというふうに思いますので、5、6点ありますが、それについてお願いいたします。

議長（中田文夫君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 三鍋議員さんの再質問にお答えしたいと思います。

まず、消火栓の能力の件でご質問があったわけでごさいます、その関係は確認はしていないところでごさいます、ただ、我が村の給水体制は簡易水道であるということです。簡易水道というのはどちらかといいますと、管渠の太さといいますか、補助対象とかいろんなことがあるわけでごさいます、防火に耐えられる消火能力を持った消火栓を設置しているわけでごさいます、そういった能力が不足だった、水が不足したということについては今後のこともごさいますので、十分調査研究してまいりたいと思います。

ただ、今端的におっしゃったように、立山町が水が余っているからもらえばいいんだという発想といいますか考えは、非常に雑な話だと思っているわけでごさいます、例えばこれは行政区域ばかりでないですよ。要は物の根底は分水という言葉を使うんですが、立山町さんにしてもそれだけのお金をかけて施設をつくっているわけです。ですからお互いの緊密さといいますか、そういう話をしていかないで、いつも簡単にもらえという発想は非常に私は危険だと思いますので、この場をかりまして三鍋議員さんをお願いするわけでごさいます。

それから、火災予防にまつわるいろんな話もお聞きしたわけでごさいますけれども、私も前もって通告を受けておればそれなりの調査研究をしておくわけでごさいます。

れども、後での再質問でありましたので、今後また次の機会に皆さん方と協議しながらお答えしたいと思っております。

いずれにしても、早急にという行政サービスはそのような時代感覚になっております。しかしながらスピード感だけでできないものもございます。これは財政とかいろんなことがついて回るわけでございますので、そう一朝一夕に即ということもできないこともあるということでございますので、そういう点をあらかじめ皆さん方とご協議申し上げながら、安全で安心なむらづくりのために再度私も一生懸命頑張りますので、どうか皆さん方の温かいご理解、ご支援賜りますようお願い申し上げまして、私の答弁にかえさせていただきます。

議長（中田文夫君） 三鍋芳男君。

3番（三鍋芳男君） 先ほど言った防火用水路についてまだ聞いておりませんのと、立山町の件でございますが、もらうというけれども、私は例えば隣接しているところの管にメーターとかをつけて緊急の場合という意味で質問したわけなんで、ただというのではなくして、メーターをつけてその分かったものに関してあれするとかいうふうに思っただけで、その点またご理解いただきたいなというふうに思います。

先ほども私言いましたとおり、災害は忘れたころに起きるんだということをもっと考えていただいて、早急に対策をお願いしたいなと思っておりますので、よろしく申し上げます。

議長（中田文夫君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 三鍋議員さんの再々質問にお答えしたいと思います。

先ほど私が言いそびれたわけでありまして、要は防火用水を整備しなさいと言われても、ご存じのとおり未整備田があるわけです。今三鍋議員さんところがそうなんですけれども、土水路なんです。あそこへ目いっぱい水を流したらどうなりますか。そういった危険もあるわけですね。だから言われることもわかるんですけれども、現状把握の上でそういったことをおっしゃっていただかないと、一方的に水は上から流れることでございますので、自然流下でございますので、そういったことも含めて考えていかないと、一方的に防火用水だから水を流せと。しかしながら幹線の水路と末端の用水は全然受け皿が違うんですね。ご承知のとおり、水は上で集まって下流で集積するわけです。水量が増えてくるわけですから、そういったことを考えていきますと、今おっしゃっていることを私はあえて申し上げるわけではないんですが、三鍋議員さんの地区はまだ未整備地区である。用水は土水路であるといったことに対応するようなことも考え

ていただかないと、おっしゃっている趣旨は生かせないと思いますので、ここを言葉を強くしたわけではないんですが、私はあえて申し上げなかったのはそういうことも意図しているということもご理解をいただきたいと思います。